みんぷ町政だより

人口統計から

①	人口	25,238名
	（男	12,264名
	女	12,974名
	生	58名
	出	21名
	死	64件
	婚	4,379件
②	世帯数	

（5月1日調べ）

壬生史帖

雄琴神社

壬生町大字壬生、役場北東の鶏小屋に祭り、寛喜四年鎮守府将軍清原頼業の三男保定の創立で、その護国一品舎人親王（天武天皇第七皇子）目本書紀の選者）を祀り鎮琴神社と称した。寛正三年壬生城後守当地に城を築き城主となりより七年後の文明元年七の頃小槻今雄公の神霊を合祀鎮琴村より迎え本社に合祀鎮琴神社と改めた。その後壬生氏は滅び、天正十九年結城三河守領主の時、更に本地主命を合祀、寛永十三年川崎石衛門壬生代官の折保定壬生世の孫鶴川勝成を改めて公庁に進し改めて神主となし、現在に至る。

写真＝福和田部落の田植風景

6月のごよみ

一日　▽傷波の日
▽気象記念日
（子孫の正確を期するために日に高度化するとともに、気象業務の実状を紹介する）
▽貯量調査
▽全国交通安全運動
（十日まで、雨期に多い交通事故について注意点を呼びかける）
▽雑業安全運動（期間十日まで、七月一日から始まる運動に実効をあげるよう施設作業方法等について改善の措置を促す）
▽国際児童月
▽燈火管制週間（全国におかれている燈火管制委員の役割を周知し、制度の活用を促す）
▽社会福祉事業法施行十周年（事業の実態と問題点を紹介して一般の協力を求める）
▽有機燐剤殺虫剤使用上月間（三十日まで、農家を対象に新農薬の正しい使用法について注意を喚起する）
▽学校保健法施行一年（健康診断の結果に基づき指導の措置について家庭に周知徹底させる）
四日　▽歯の歯に調査（十日まで、実践歯を持つことは健康保持の絶対条件であることを強調、人々の歯の治療についての関心を高める）
十日　▽歯の記念日
（時期の歯に関期間を設けて歯科医を実行へ）
二十日　▽特別防蚕運動（七月一日までの予定「蚕開放人は「蚕育養」と一体となって蚕の飼育及び農家に呼びかける）
二十一日　▽夏の健康をする運動（一カ月間、伝染病予防に関する衛生教育と食品の取扱いについて一般の注意を喚起する）
二十五日　▽救らの日（救らい事業に挺身する人々への感謝の心を）

地方税法の改正

免税点の引上げ

地方税法に一部改正があり、昭和34年度から、土地で二万円、家屋では三万円（従来一万円）に、家屋では三万円（従来一万円）に引上げられた。

（税額では土地が二八〇円、家屋は四二〇円）に引上げられた。

2．軽油引取税
税率が二キロリットルにつき一万四百円（従来八千円）に引上げられた。

免税点の引上げ

一、固定資産税
土地及び家屋の固定資産税の免税点

二、県税について
1、事業税
個人事業税の基礎控除の額が年額二十四万円から四万円（従来十五万円）に引上げられた。

三、旅行の生徒は無事に

旅行の生徒は無事に

パトカー愛のリレー

修学旅行中の盲腸患者をパトカーのリレー。五月十四日の各新聞に民主警察の明るい活躍として掲載されました。壬生中学校では三年生二百十六人が十一日から二泊三日の予定で、江の島・箱根遠足。

十日の朝、盲腸炎にかかった生徒の一人が腹痛を訴え、医小倉さんの診察の結果急性盲腸炎と分った。このまま汽車乗換駅生徒の同行の先生方は顔を集めて相談した。このまま汽車にしながら直行するか汽車で帰宅か途中で入院するか本人は壬生へ帰りたいという。手術は保護者の同意が必要だ。旅先の看護の事等父母状から見て校長、校医先生の判断でこのまま直行することになった。

生徒たちは心配顔で見送りの中を一路壬生へ向う途中の事だ。立川の近くで盲腸膜の交通整理に遭った。事情を訴えて急救車の手配を依頼したが都合つかず、ハイヤーに乗りパトカーの先導で出発した。十キロ一時間半で無事壬生小倉医院へ入院手術することができた。

幸いかのうち計画の所、三県の警察の協力と校長、校医、各先生の適切な処置で危機を切り抜けたことは誠に感謝に堪えない。

おそらく修学旅行は生徒の最後の思い出となる楽しい旅であるこの際これは先方の不眠不休の御苦労があることを忘れることは出来ない。

今度の旅行にまつわるエピソードがある。

二百人から三百人の生徒宿泊所に着くと大騒ぎ。いちいち部屋取り人数調べる。部屋割りの姿各班毎に集合して大騒ぎ。

十分内外、それを指示する先生方は風呂場と廊下を行ったり来たり中には着替をとり替える生徒も出る。

そこへ飯の出る頃迄の男生徒がうんと食べて女の子は仲々食べられない。先生は生徒を飲みながら指示するが、食気の無い教師と勝手が違うという。

夜は夜で生徒方は疲れて不寝番に立つ。各部屋を廻りながら疲れの夜は疲れてあくびが出てくる。寝顔の悪い生徒はとんでもないのがいてまれである。

附言の目は減ろうだ。

（後で三日間というのは、先生方は休まる暇がないですね。先生方の苦労で生徒は無事に旅行ができ楽く感謝したします」と語っている。

この間、各班長さんの所へ回覧板を届けましたが、班長さんの交替などの時は早し誤りして下さるようお願い致します。

学校の建築状況

○壬生中学校の建築工事は、四月二十日に起工式を行った。

○安塚小学校では五月四日に上棟式をすませた。

○稲葉小学校の上棟式は五月二十五日挙行した。

上…安塚小学校の上棟式
下…壬生中で小田垣町長のくわ入れ式

町のあれこれ

☆土木委員会では、4月30日各地区の道路を視察した。今後の道路の拡張や補修の資料とするため。

☆去る4月23日の県議会議員の選挙で、投票成績優良町村として壬生町が表彰された。

☆羽小で4月28日、栃農壬生分校では5月19それぞれ創立十周年記念式典を挙行した。

☆民生課では水が少なくなるのを待つて、下水掘りを計画しております。自次の方の御協力をお願いします。

☆昨年の水害で堤防のこわれた十カ所の修理は栃木土木出張所壬生派出所でやっておりますがこの程そのほとんどが終了した。

お知らせ

月例農地部会

壬生町農業委員会議、地部会では、皆さんからの申請について、毎月五日を、会議開催日と定めて処理しておりますが、来る六月の会議開催日より、会議開催日は毎月十五日と定めて、審議することになります。従って、申請する方は、毎月十五日に、農業委員会に受付出来るように、ご願います。

お知らせ

夕がお

いよいよ蚊帳期、蚊帳の蚊帳帯を、茶作りが終ってホット息つく暇もなく、きっとり夕がおがつまっている。夏初りや山開だ手間しよく清廉潔白な人柄。農業の手助が育見や母、洗濯を受け持ち、その傍野に出て重労働に従事している。農家の女性が骨太い手にまるの様実然だ。

▼壬生町農業委員会議員は蔚山形県の農家の出身で、家に居て養蚕、養豚、乳牛の世話を任せたまえ。

▼農業男になる各学校が休みになり、小さい子供たちの労働力まで動員されている。栃木県の生徒の学力向上が全国中の下に属しているのを、父兄は承知の通りである。ある農家出の人に生徒たちが農業男になるのを聞いたら、手伝ってやるのだ、と答えた。

▼農業男になる生徒たちは、農作業の一部だろう。

先づ注意人は車に、車は人に

解説

教育効果の上る学校統合

世の潮音が耳の中ではとかくりますが、その内容についてみる親馬鹿になるものです。日本人は世の潮音が耳の中ではとかくりますが、その内容についてみる親馬鹿になるものです。日本人は一校に十二から十八学級程度の一人位が指導するにも、また教育効果の面でも一番潤っているといわれております。また教育は、金かかるものの問題が決っているのは、一体教育面でどんな事を考えたら良いだろうか。学校の教育経費についてみると、壬生町は平成の小中学校があること、一校に平均二百人から九百人の学級、人数にして五百人から九百人の学級、人数にして五百人から九百人当り、千円）国分校では四十七万八千円（一人当り四万五千七百円）となって小さな学校ほど一人当りの経費は増えて参ります。

また教育の反面にいろいろな施設や教育用具、職員の組織等ではどうしてもそこい学校にかないません。現在国分校と壬生北小との学校統合が脚光を浴びております。もうお解りの事でしょう。

国分校　三学級　〃　人数二〇一人
壬生北小　六学級　〃　一九四人

が統合すると、六小に匹学っている児童を含めて十二学級で四百人の、いわゆる適正な規模の学校となる訳です。

現在両校の父兄より代表が出て種々協議を進めております。町としても教育効果を上げる点と経費の有効な使用という面を重視しております。

お茶摘み

今年は一般に早年より気温が高かった故か、お茶摘みは一週間から十日も早く始った。心配されていた晩霜もなく、二三割の減収で歩留りもよく、その御骨折感謝の感は、二十三年と大した違いはない模様です。（写真は壬生三橋町の茶摘み風景）

町に郷土誌を

最近郷土史や歴史的な出土品に関する研究が盛んになり、郷土の研究ということが、有志の間から盛り上ってきます。歴史的な遺物は、郷土の研究ということが、有志の間から盛り上ってきます。歴史的な遺物は、郷土の研究ということが、有志の間から盛り上ってきます。郷土の研究ということが、一部の人達の間に吉い郷土誌として一寸はずかしい現状です。即ち郷土の研究や凝好家、史料を持っている個人、神社、寺院、学校等の現場を深めたいと思います。六月中旬頃、公民館長会等の現場を深めたいと思います。六月中旬頃、公民館長会等の現場を深めたいと思います。六月中旬頃、公民館長会